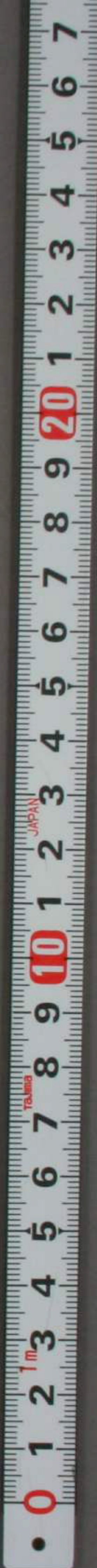


播州名所巡覽圖繪

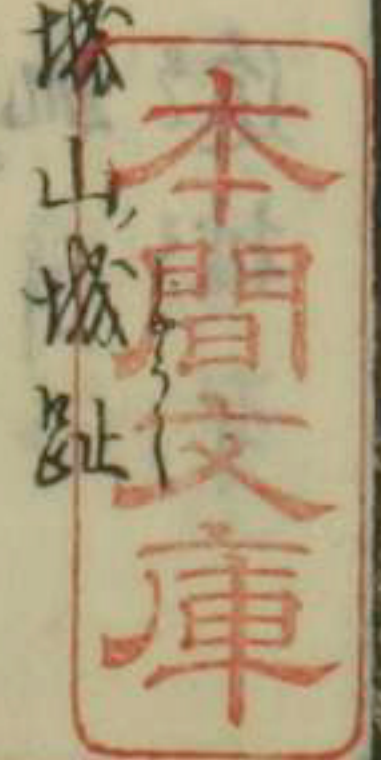
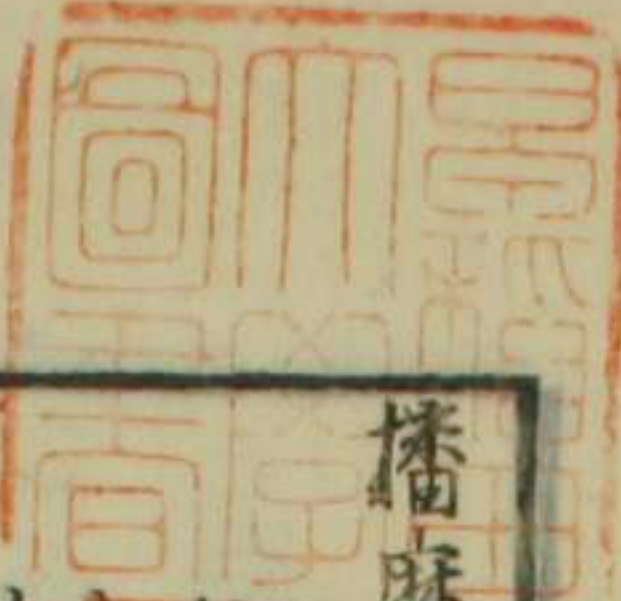
五

ル 4  
3665  
5



凡4  
號3665  
卷5

播磨名所巡覽圖會卷之五月錄



龍理鎮城 <small>成良一社 寺院土寺</small>	龍理川	三社明神	礪山城跡
小柳清水	小津	梶山城跡	行崎驛
栗原津洞	袋尾津洞	南天燭大樹	赤松則勝墓
須比良津社	中津寺	平安保昌墓	令別山城跡
龍門寺	宍粟川	逆水津	因融寺
倭津の浦	礪山	山伏岳	七曲井 地獄谷
下ヶ浜	池乃浜	大芝寺	門崎
室津	室明津	正殿 別雷堂 拜堂	斤園社 古田社 本願社
<small>岩寺社 二層塔 石合社 格不社</small>	<small>堀田洞 権吉社 白松社 権藤</small>	<small>若宮社 八幡宮 荒津</small>	杖尾社 棚尾社
津宮寺 蓮師	天王祠	見世寺	小泉月津寺
大雲寺	正洞院	正法寺	津名寺
			津運寺 玄若墓

大正 24.6.10  
栗



播磨名所巡覽圖會卷之五

龍野鎭城

龍野鎭城 居城あり

新田義貞始て當國一國を攝ふ義貞之びて

足利家より赤松則祐を攝ふ満祐弒逆乃ち後ハ嗣主はしそ

後赤松政則を攝ふ延徳年中當城を攝へ猶子政村を攝ふ

城を讓る足當城乃ち始て○於内ハ揖東揖西三郡を跨る

莊廿一郷凡百五十一邑東ハ播磨西ハ那波野小凡百五十一邑

香山聖岩を限り南ハ細子新在家東ハ西凡三星余南北ハ三星余

竈敷千軒許寺院十二ヶ寺氏宮一社別當正覺院

右の驛道ハ小川ありて播磨の水路山を下り書字坂なり

又市郷相控中村のろね今ノ名村あり夜比良の後ノと銀ノ布施あり

小大丸光明山乃ち下りる田原の産とさき舟橋あり山陽道ハ今ノ道あり

又赤松勢取坂と先塞ぎ新田義貞先陣江田大紋書坂ハ舟橋と交り今ノ街ハ

○去産 鱈 巨口 辛大根 海産 山椒 栗 枳 砥石

○市三九日六日ありて完粟枕用赤徳新宮林田を三月ごとく来て賣賣あり

○舟ハ龍野とらひて大坂九州皆海より停保川を通り淡路九三三里ハ近事海産と産あり

龍野川

川上ハ完東郡ニ流レテ合テ於此海ニ注ル



三社明神

○臺山といふ今の宮乃山なり  
日山といふ産靈神といふなり  
小津村にあり文明三年建立

城山城跡

平舟郷中坂内村にあり赤松の即伊豫守義隆の居城之跡城之跡は山谷谷波にあり  
南小坂郷に遷城の報百里も眼下に透り發露二楯保川の大河あり細川山名乃西郷  
五万余騎を以て嚴攻其城は遂に赤松元年九月十日城山の城一斤の煙あり萬歳二及ぶ

小柳清水

平舟郷にあり村にあり  
長老の宅地といふ今尾上と書けり  
小室郷小津村にあり其の西二万歩

振山城跡

河内庄河内村にあり谷沢甲斐守高直の國氏  
長老の宅地といふ今尾上と書けり  
赤松の守り承正年中赤松政村にあり

系原津祠

川の辺にあり  
赤松の守り承正年中赤松政村にあり

赤松則勝墓

川の辺にあり陳城跡にあり  
赤松の守り承正年中赤松政村にあり

麻谷山中島寺

石見庄中島にあり  
赤松の守り承正年中赤松政村にあり

令剛山城跡

佐々木三郎重綱十三代加地元兵衛尉義綱嫡男加地刑部少輔信盛文明中  
赤松政則の指しに應仁年中中水田乃城より家より移り子息水田元近河内庄

濱

天徳山龍門寺

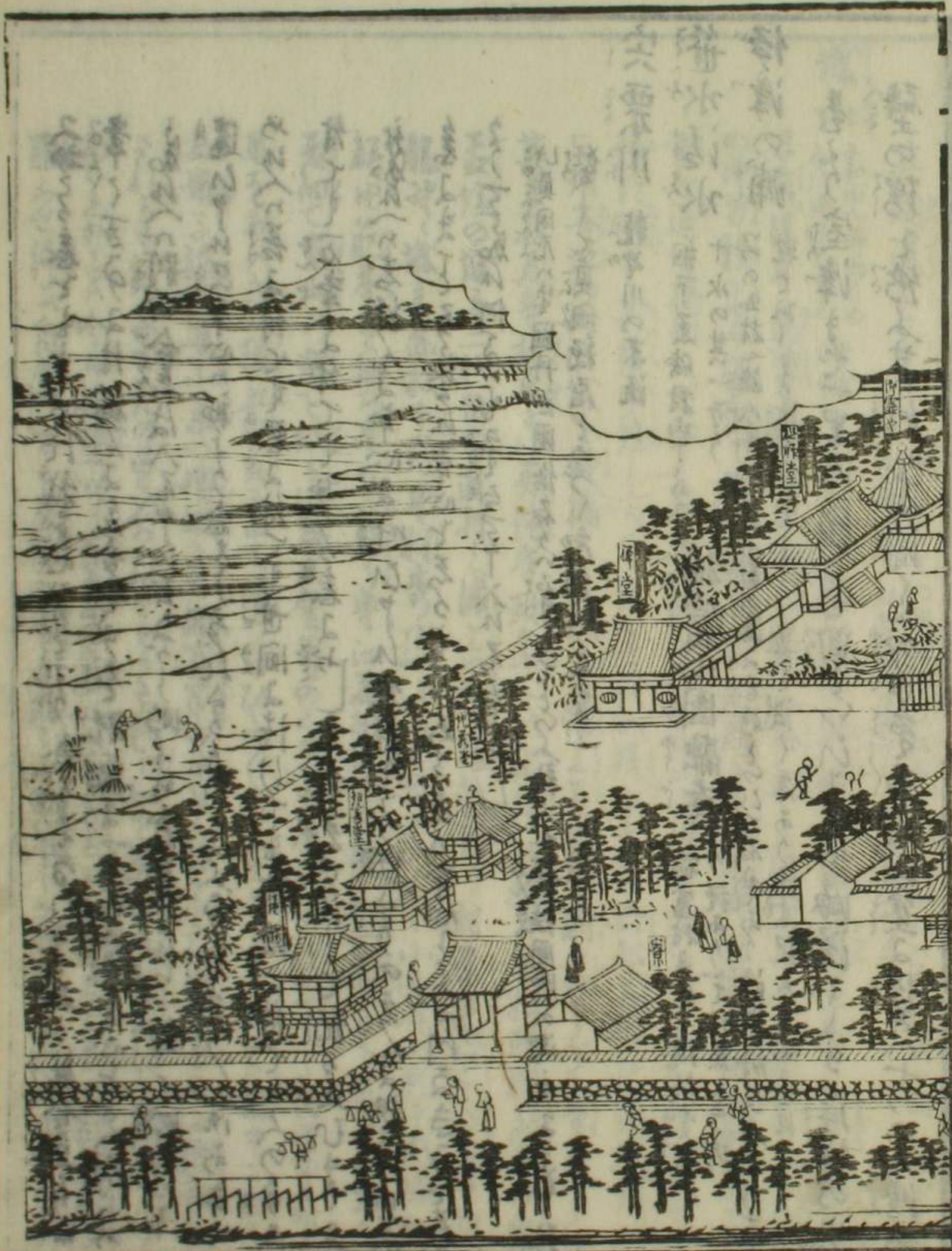
細下溪田村にあり  
用基盤珪和尚伽藍大地也

盤珪佛智禪師

横州楫西郡溪田郷の産りて元和八年三月の降

誕ん七八歳の比より万人に勝る村民其家家の神童と稱は十歳より  
て父乃憂ふ丁ひ十二歳して大智明德乃論を講以國人皆感  
ぬ日郷西方寺に入て不勅明王に祈教して日國赤徳院禪師  
乃法流雲南洋和尚の弟子となりて出家しぬ後弟子凡に百人  
あり諸國に度せし寺院を祀る其教五十余ヶ不元禄六年  
九月遷化以年七十二歳元文五年又十年又二十より大法正眼國  
師と謚あり

○盤珪法流と印板あり世に是を著し又吾輩は其を著し其を著し其を著し  
の意を著し其を著し其を著し其を著し其を著し其を著し其を著し其を著し  
と有り今且例として其を著し其を著し其を著し其を著し其を著し其を著し其を著し其を著し  
横州楫保郡溪田村不徹庵の用基盤珪和尚の禪師の印板の字  
便り中庵にあり一筆で入し其の字も所愛の字なり其の字も所愛の字なり其の字も所愛の字なり  
け方何の字なり其の字も所愛の字なり其の字も所愛の字なり其の字も所愛の字なり其の字も所愛の字なり  
度ねん其の字も所愛の字なり其の字も所愛の字なり其の字も所愛の字なり其の字も所愛の字なり其の字も所愛の字なり  
よし其の字も所愛の字なり其の字も所愛の字なり其の字も所愛の字なり其の字も所愛の字なり其の字も所愛の字なり



天徳山龍内寺

け北のを千原カワリし和尙今乃  
 下く建立匠を金再建ハ赤松  
 一族藤原孫三郎光則カワリ  
 とよつら墓あり用山堂ハ  
 境内のそく日あり幽閑の  
 地カワリ元禄中  
 徳勢あり徳敷ハ  
 余人在安乃  
 佛智弘海邊所  
 と孫一希代の  
 又徳と深つ  
 ぐ

又抑るる意をもくわに我本心なりとすり念をたもれりる抑と縁合息が  
常く万の又付福んよえ合ぬを肝要とすもれ本心とて人明ら  
ぬ久の別は合長は入不中法をなすゆめは度重しゆり希てゆめ  
迷ひ中は只本心の抑より念をたもれりるのよとすりてゆくゆめ  
ゆめ人若く付ても悪く付ても世間を法けても佛法に付ても人の  
付ても万幸に付ても抑るる意を止しめ念をたもれりて止むし  
は如くは志福んよ本心は叶ひ念のんより受りてのえんは抑り  
念よまたと多る念の本心と志るも乃ちあつたる本心とすりて  
ううて如く何れも念をたもれりる入不中法をなすゆめ  
し真嗣元は生國丹波國信名ふ原をととらふ教人之盤建國神の御  
祭して真嗣後元とすりて殿室今あり

穴栗川 龍野川の末流

箕水清水

伊津の浦

細干夏津村山下あり 稲富山園融寺 稲富村あり 樹紙金泥  
十水の其一あり 乃の出水は海へ流しけ浦の南の海へ志流とすりて石あり波の付りて乃ち  
乾てりる遊津の者あり 眞と流く石あり波の親善と云ふ也  
是より室津まで一里乃間と七回とすりて南海漫くす山岸經の岩  
壁の端と修り其行り石流く石を登りての山室は後耳へ七つの入津あり

て其間道を上下

城山

室山之西のり 此城は元弘の赤松次郎則村入る園心築るをよと即園心の城  
子信濃守範資乃三男本御持部女由教と同園心の次男範光守範  
の次男雅由公則教と兩人籠りて建武より氏郷西國邊の附新田員  
是と退て播州へ下向り江田大領と名て室山乃城と築し赤松討まけて赤  
穂の退く其後中絶するが園心六代の後流赤松兵部少輔政則播磨他  
三州安治の附け城と修補して執事浦上氏守則宗と名て守りしむ  
其より石見守村宗日英他守政の三代相續は流は赤松政則死去の後  
孟埜の城より二代目乃政村と浦上氏子確執起り村宗運心を企てる也  
龍野の城を赤松下野守村秀頼より幕下の人々小太丸の竹を内海助  
解伸範資をゆり平舟中守は及城守因山兵庫ら下五百金誘を  
是向て室山乃城と攻るけ勢大雲寺のら下より明津山のきりての面三町  
馬を折入式に籠れよえはて漕つけひひくと妻考りて折る城の中政宗  
乃嫡子孫を進宗景の婚姻して酒真守のりるに石見守村宗日英は  
これとも政宗右老の勇めりては下知とすりて是と是と戦ひたり  
あはせかり今日屋敷にせりて景の妻二八年かろ小長刀とて教と教と  
難とせ修り自宮にする妻の妻は是と是と妻入りては政宗今叶ハトと

多岐の渡

徳島の多岐の渡は、瀬の浅く、舟の往来に便し、昔より名所なり。

獅子岩

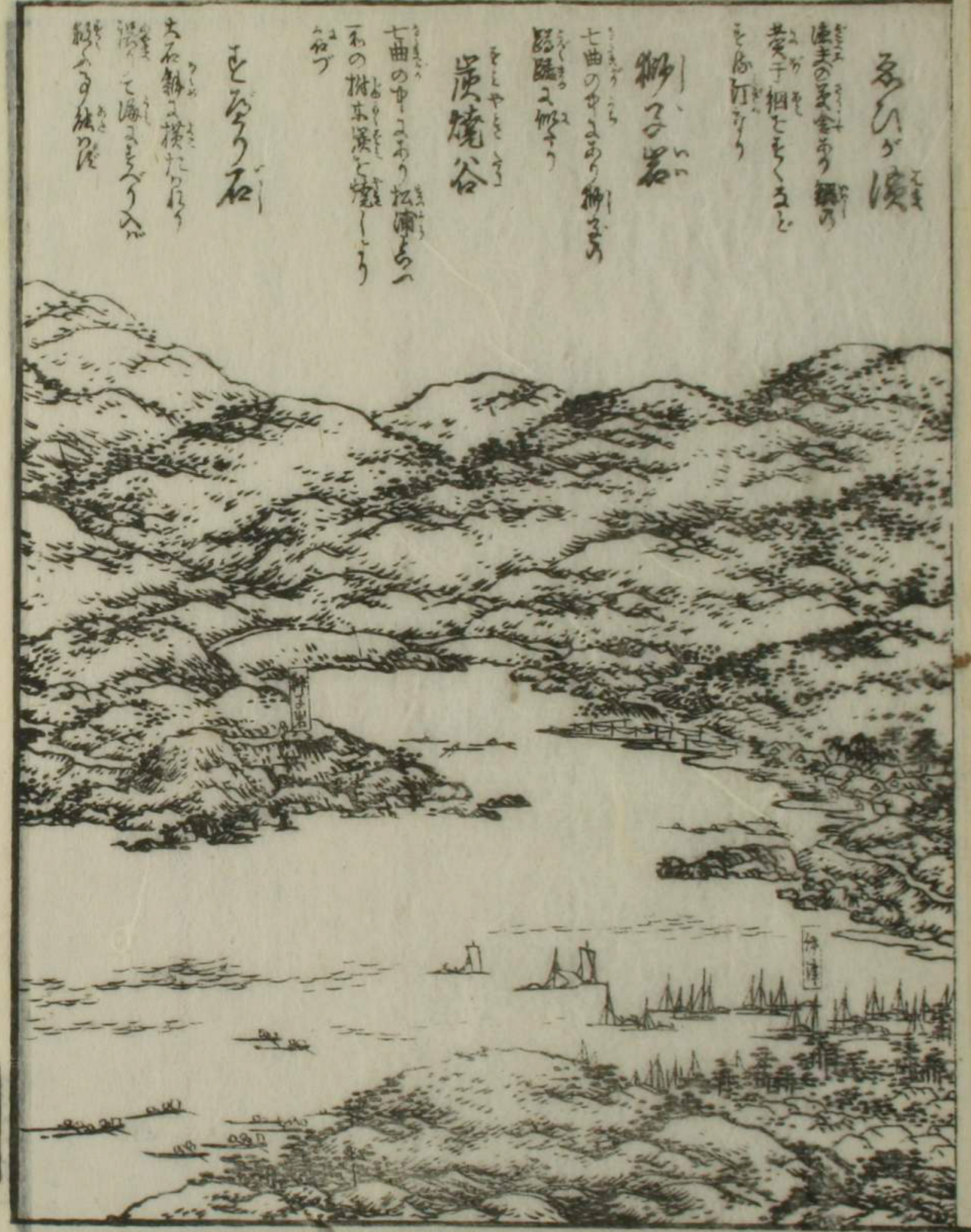
七曲の中より獅子岩あり、形如獅子、奇観なり。

炭焼谷

七曲の中より炭焼谷あり、石の樹木、炭を焼く所なり。

とらぎ石

大石、形如とらぎ、奇観なり。



七曲舟

傾城嶽石塔

七曲の中より傾城嶽あり、石塔あり、奇観なり。

山伏嶽

山伏の原あり、奇観なり。

銚子岩

地獄谷

七曲の中より地獄谷あり、奇観なり。







崎子字景を依り若州に離し其身心志をうら咽石大炊女に依借せし  
功後以死難へ見性禪寺を創り常印大居士と号しけ耐永福九年二  
月十一日崩壊して其歎むは「そ被姫治の城を松平下総守徳匡度への城に  
二番小屋を建てる見の兵年二人を去り毛羅殿殿ひのうらこ又南方の城門の  
法に院を築きと建て宮取目高の傍りこれ東方の水産室新水といふ傍り  
産室を若城郭の用あり

室津 室の泊 室乃浦 尚津は播州の一都會ありて西國大名を  
勅使来乃若岸と定む又系船の津とも定む帝畿と去り十

二里山の三面を覆て江湾の一方は海に上百里美景を觀望し  
泊船の池中は松ぶかく猿客の波上は枕と妻人於岸には熊本の  
子舟と御高し山岸には花女の糸竹の堀き國守の賑う海士乃綱を  
せ漁の美妙若樂窮覽の思あり○室とは人の居室のるを云ふけ  
江のたまいにこりりたるふたてり○舊傳曰非代のむしは津又  
夏蔓紫苑りて晴夜乃てく道治も見へるこりりかは加茂別雷

昨日向國高千穂峯よりけみ親向し夏蔓を依拂ひ給ひと始  
とて今の紫昌乃乃りて西海往來乃宮取風波と津と要津  
とあり高藤居士乃後宮高人の交易ありと云は津と懸繋ざるあり  
るを又大明の令華縣と集りて令華津とも号する  
むろの浦乃せと此傍り鳴鶴の磯に波はぬきよきなり  
山のふもとにせぬ夜に室の海はつまいひよりとつて教每人

け余秋後これを略し之を貴之と依り記しは津のるを云ふ  
公任御願詠集曰若東の雅周防守とありて下向り耐け地の風景と云ふ

曉入長松之洞 巖泉咽号 嶺猿吟

庭宿松浦之波 青嵐吹号 皓月白  
春の耐るるに「程」又室の傍りつぎ松平中睡けのよふかきとそほひをう  
たり中睡け社の加茂のそりやよこのとまりの社なりしその津よりけあせ  
て所去りしにけしは社又いふとてあつてあつたりてあつたりてあつたり  
とも集りてあつたりとこれの所らわの雨風乃ぬいよとの所りのくち  
そきこゆる雲をけんの所らういよのけぬくのわくうよたの月く  
そ野のゆるる

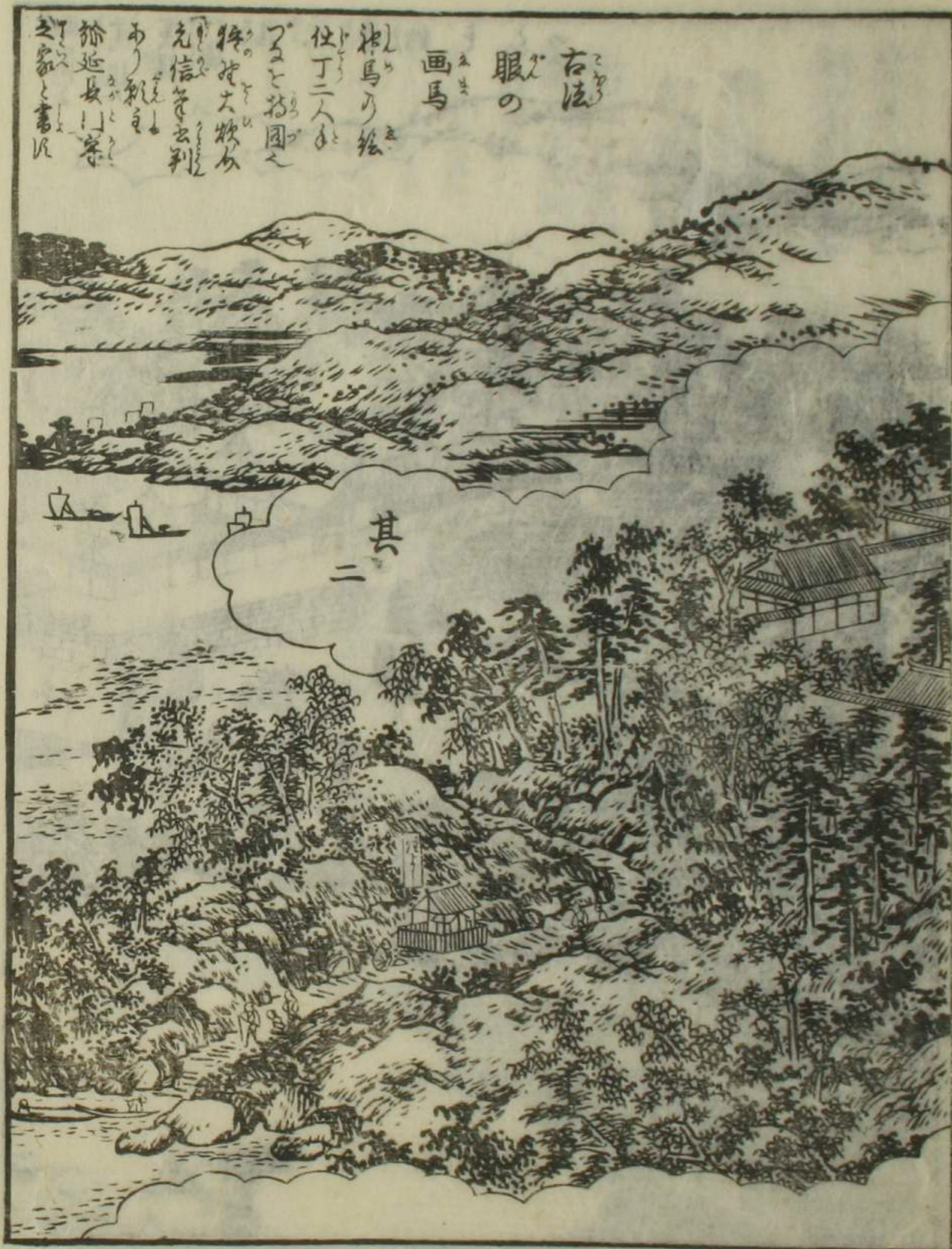




画竹  
 虎根  
 美揚  
 八橋  
 松  
 枝  
 奉  
 納  
 と  
 と  
 又



室明津  
 尚社傳來の什宝  
 源光朝之御判  
 寄附状  
 社名として下橋  
 の御内按志林  
 田室御園公上  
 三ツの底大法二  
 奉九月十八日の  
 寄附状之其外  
 歴代御軍家の御判書  
 判物等教通あり  
 平重衡御毘毘  
 表の方栗本表紅  
 花梨天板澤素  
 面画の雲月裏の







創建之西海往來乃諸侯朝拜人々之郷食應の事と云

鳥居大路送跡

鳥居大路の送跡は鳥居大路の送跡に因りて名をとりて送跡の中 西谷地馬を三羽其外無事なりと云

遊女

遊女は西谷地馬を三羽其外無事なりと云 昔は津より花津と云

英人あり魁之又歎曰「彼書はして和歌と詠へば舞白拍子の花

戯を業として存来不の長うれい室乃君とぞい」と云り後世に

て傾燃と云傾燃は西谷地馬を三羽其外無事なりと云 其後宮城野友君大柄板

なと名高き花女あり」と室於廓尾中町の記等と云

或云室君と云り西谷地馬を三羽其外無事なりと云

源右の敷ありと云り昔の室君の長と云りて云家殿上人の流人なり流人

の流り又酒宴の郷食應と云り昔の室君の長と云りて云家殿上人の流人

○月花女善賢の化身と云る話

辨

性室上人の日以法華讀誦の劫よりまのつらり六根淨乃功德と

得たりと云り身の善賢菩薩を拜せり七日前に

七日の曉天皇來りて室乃花女が長者を授けり

賢なりと云りてうせぬ教のすみ室の長者が家に入りて

まは長者出合致えて上人は酒と云りて周防のそたら

浪の月乃善信てと相へい居る花女もは夢と云ら

浪の月やまといふと云り先ぞ生る乃善賢と云り

目をふざれ心をまのり人かんとん系和の生身の善賢自家

塵に染ひて法性むろの大海は恒眼の月乃先がうらうと

うたせ給り又目をむきく足は花女の長者之佩と云

ら浪の月と云り上人たつる魚の世にきり限は相へい

一冊去給りて後此長女善賢と云り花女にして奉と云ら

と云り身乃善賢とは云い給り」と





ていねとありとげぬるの音しきよんが若の姫府候源忠次けねとぬりんとて記司ふ合じ  
と若よよたるか多く寝て其よと標本とをこれと知しゆ終りて後世破紙の難かり  
玉藻うらわりのの海よけりけりけりありや我ふいそん 赤人

燈籠堂

港口にあり昔跡後寺の跡今余南中十回并大石と云ふ  
其よと標本を建てて其跡を標本の跡と云ふ

陸村

西園記る赤穂城  
下への退かり

那波 那波浦 那波大嶋

那波の海邊の中へ入る一里許にあり  
今入るに白那波の波瀬の跡あり

那波 那波跡 得兼寺

那波の跡にあり跡三郎重氏居跡に即赤松の跡あり  
今入るに白那波の波瀬の跡あり

江林山徳業寺

那波の跡にあり赤松の跡に即赤松の跡あり  
今入るに白那波の波瀬の跡あり

温泉山慈眼寺

那波の跡にあり赤松の跡に即赤松の跡あり  
今入るに白那波の波瀬の跡あり

高通峯

那波の跡にあり赤松の跡に即赤松の跡あり  
今入るに白那波の波瀬の跡あり

坂紙浦 日湊 日泊

那波の跡にあり赤松の跡に即赤松の跡あり  
今入るに白那波の波瀬の跡あり

生島 一名いさみ島 坂紙の 坂紙の跡に即赤松の跡あり  
今入るに白那波の波瀬の跡あり

五景系花番本悉く満里即大酒明津の旅なりして諸なる  
見ゆの濃よりいちうて二丁許津中へ横たうて風濤をふせき

先がみ小浦人の安居なる濃と波とる間ハ深きや五十尋及  
べり又小島も若鳥とあり

朝夕又定ゆるとせとけくはいと濃よこそ候べり  
主人坂紙をまへして流るよとあり

稲島 坂紙の海あり 細川函島の程あり  
後いふとれはうらや稲が島柳子の色へ入ててついな

津石 坂紙の跡に即赤松の跡あり  
今入るに白那波の波瀬の跡あり

小倉町石 波をゆりて一尺ばかりはらうと三易洋不思法の家へ又高浦は所難  
の波よりいちうて二丁許津中へ横たうて風濤をふせき

大避明津 赤津泰川跡の靈とあり  
治西慶隆寺の跡あり

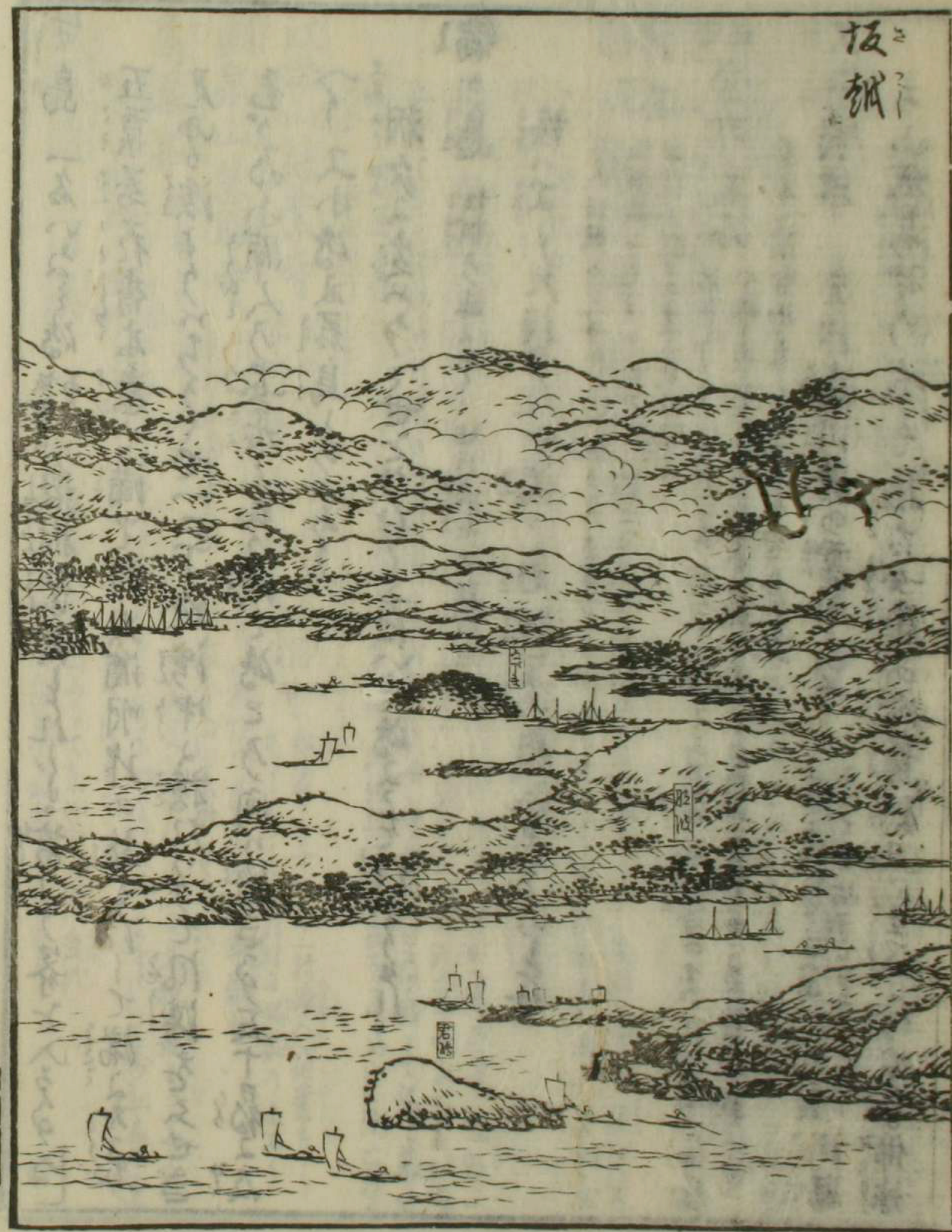
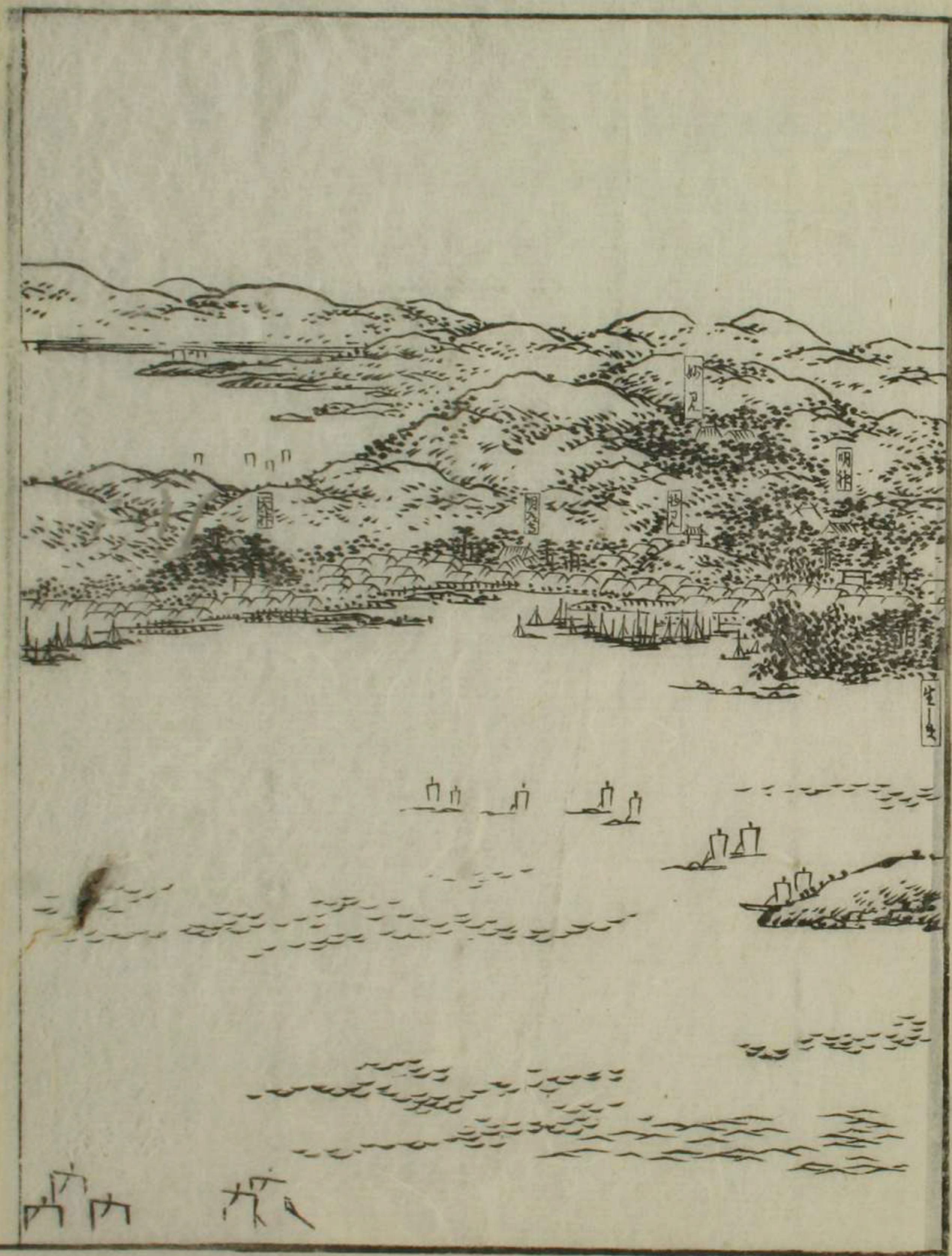
ち山城昔押のふと推古女帝の耐斐松耳の堂子に侍る子佛像

其よと標本を建てて其跡を標本の跡と云ふ

治西慶隆寺の跡あり

赤津泰川跡の靈とあり

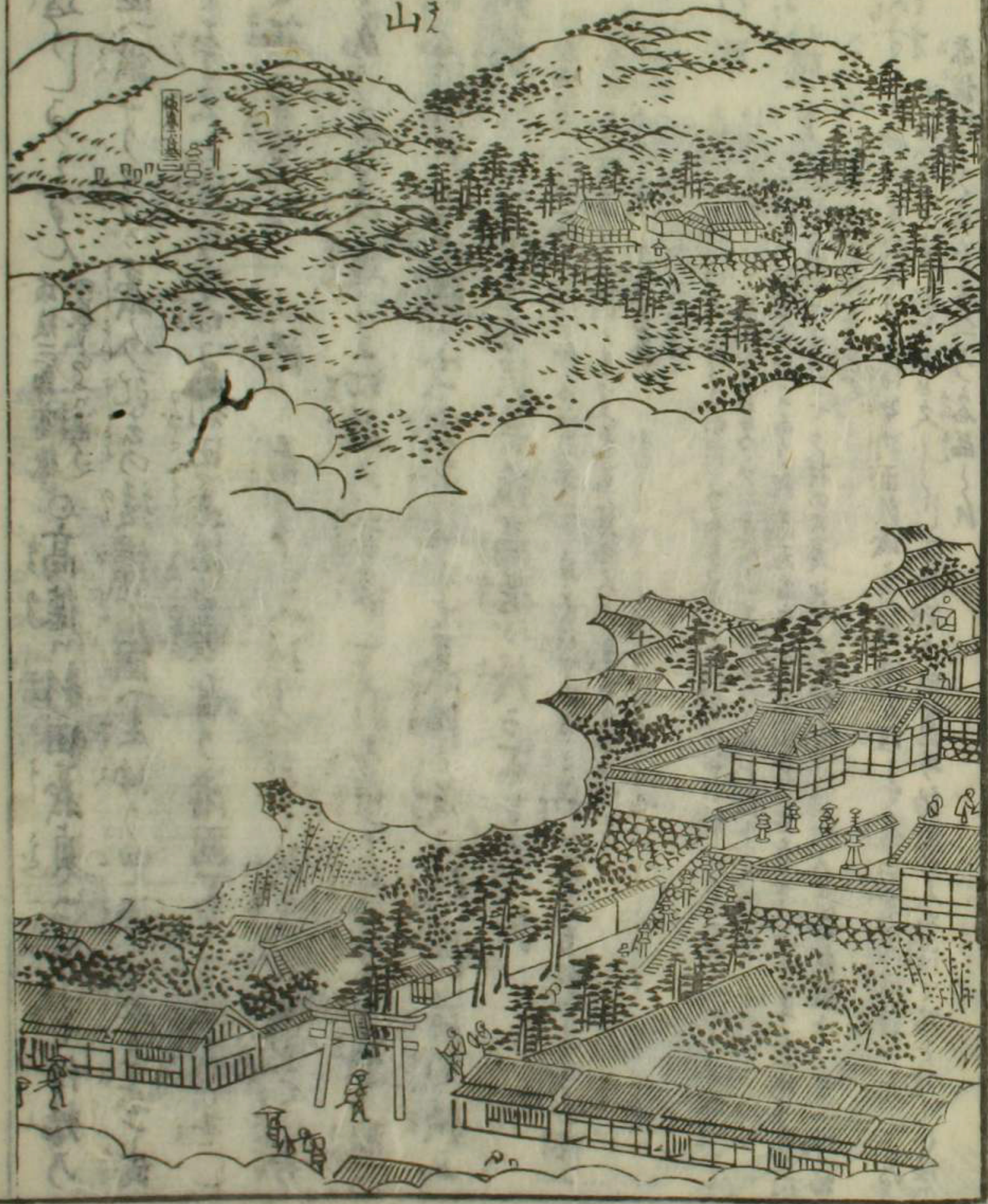
推古女帝の耐斐松耳の堂子に侍る子佛像





親觀寺

妙見山



大遊明津

坂城り産霊津

二丁

正よりゆけを

坂内方八丁官の左

方の丘ハ脚屋を

傍り別當り

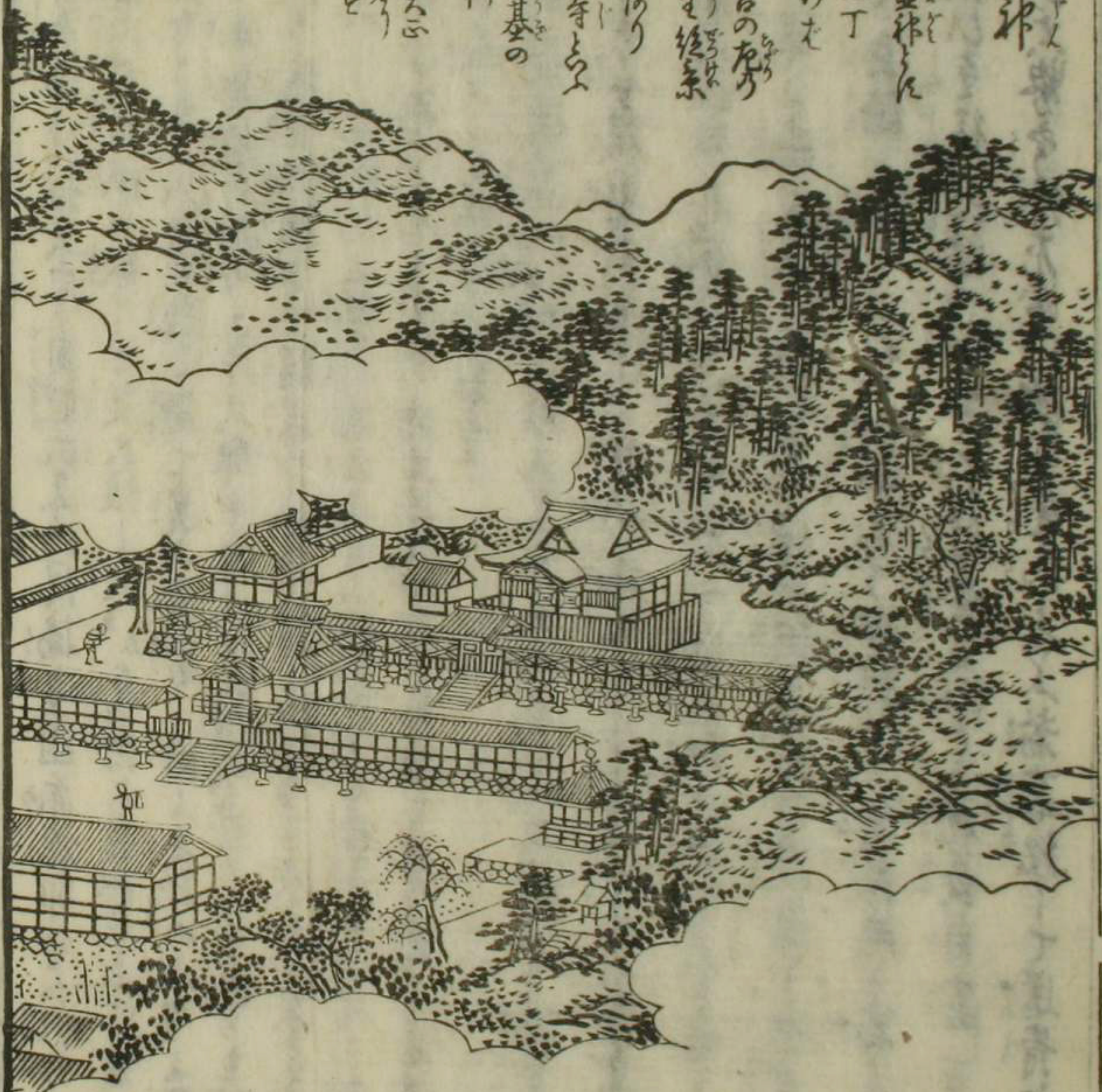
宝珠山妙見寺と

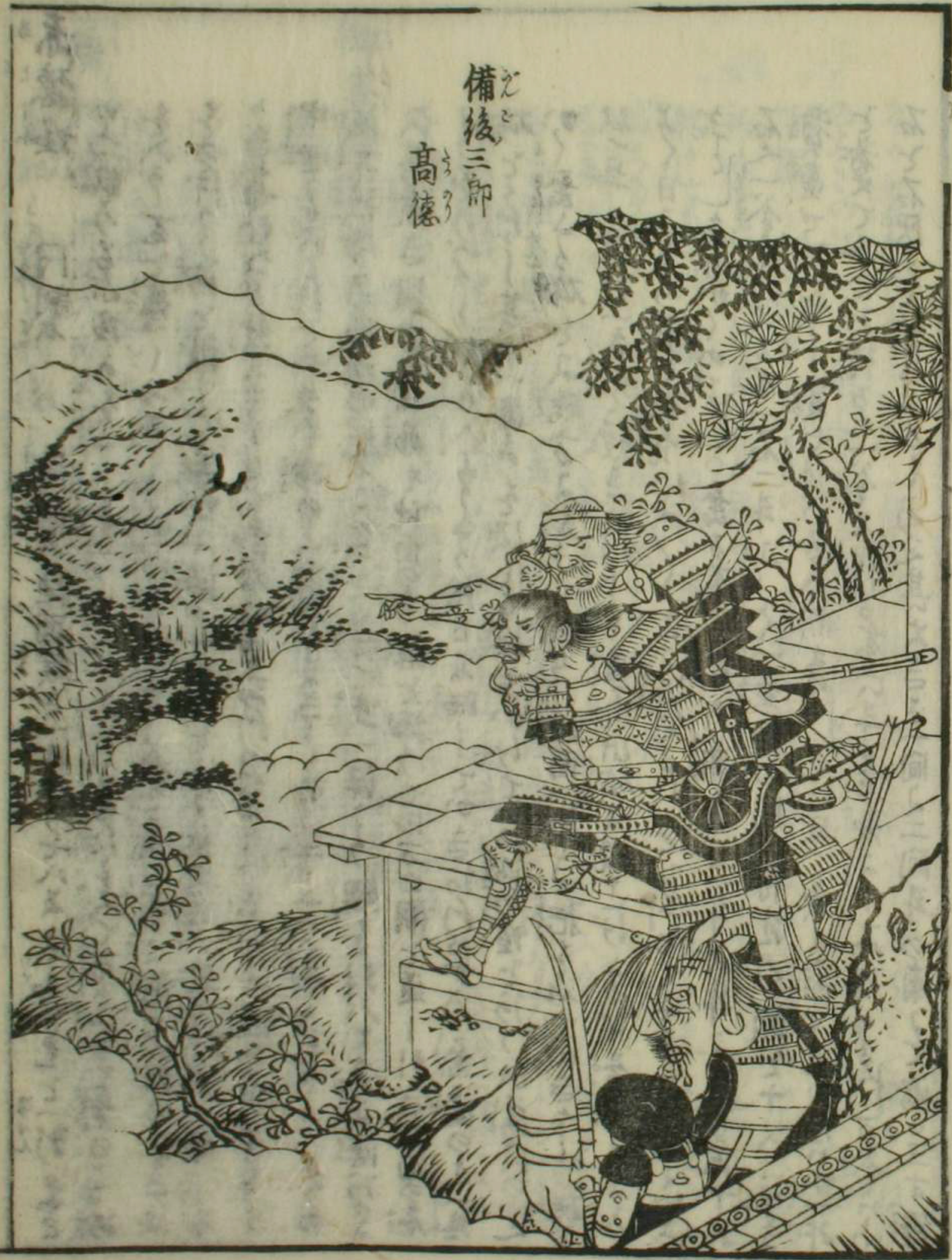
其云宗妙基の

用基塔中

十六坊天

院を





備後三郎  
高德

送りしりしるん 備後三郎高德 ○高德の弟回義貞に属して俣尾の  
 國(城)より多かり義貞の後備後國(支)ゆり思修又張と居て尚  
 日本を去と違せしるん 野田義治と喚なり諸國を又回文ををし  
 て振き集りあつて又張と居る氏又渡して逆参  
 とあり壬生の邊に一切服の若凌しこれを以て餘黨の若凌敷  
 にありたれば高德が友友お遠して義治と友に信濃へ移り候ふ  
 別發して志純と号し其後高德が終る事と云ふ候ふ

○武徳元年(1174)松山平二十二年(1173)三月三日と刻む正平の首斬の事号して候ふ

雲谷山常樂寺 板城を在

龜乃甲

尾崎八幡宮

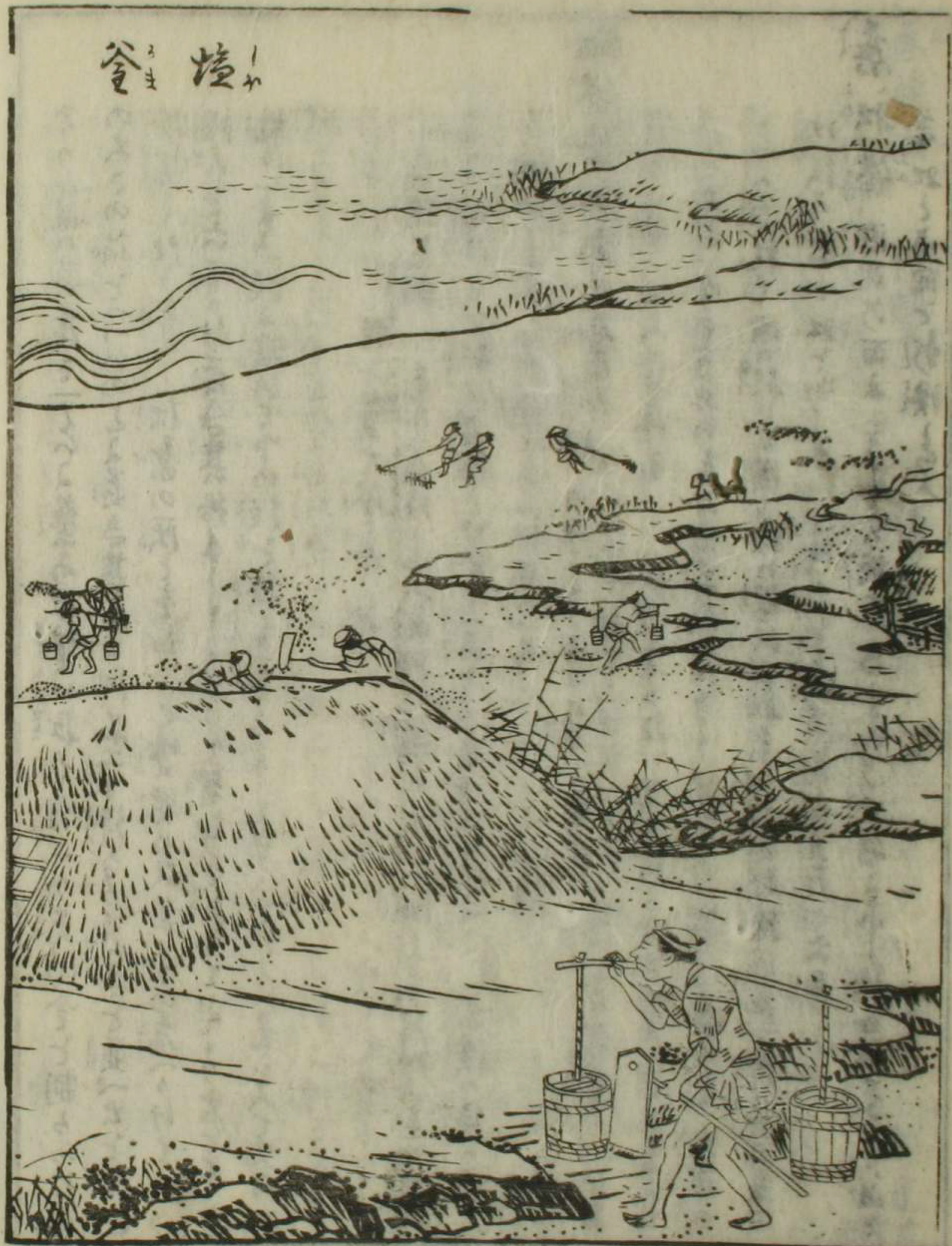
新渡村

赤徳の旗下の川石を巻いて瀬川に其の旗の甲の如く候ふ  
 甲を旗として海へさかれば先をせきく水と候ふと通候  
 板城の南尾崎村あり別當天石宗金光山非宮寺長十一年(1173)水戸尾門  
 再建板城の末十七ヶ村の古津津とい例祭八月十八日赤徳旗下より候ふ物  
 尾崎の末のあり先は内匠次郎の附海と理とて後平定尚後雅と改んぬ  
 大石坂入く大石と改め文しして板城と尚荒井的刑の人を擲て陸と候ふ候ふ  
 赤徳旗とく日本第一の志願と候ふ

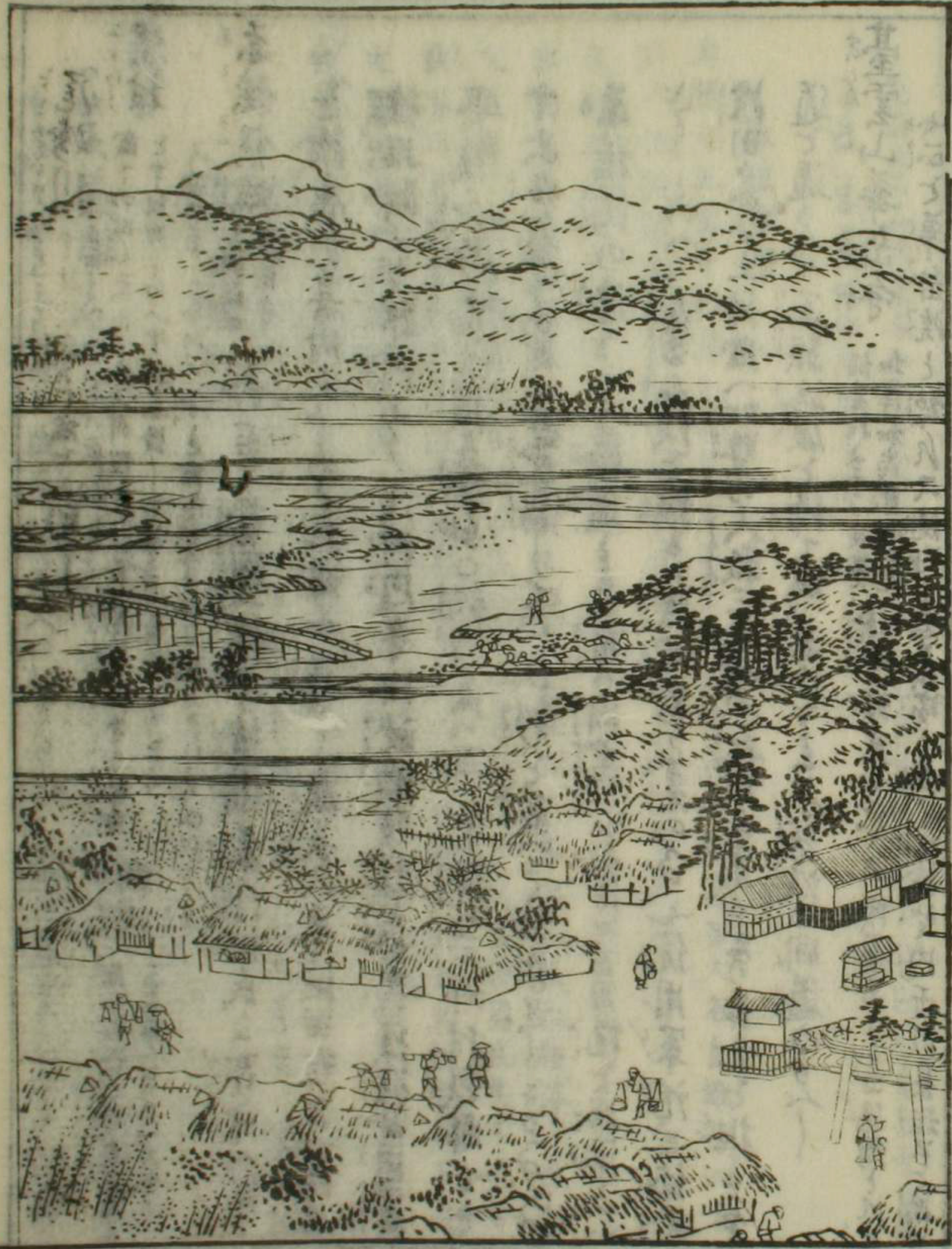




谷 埧







尾崎八幡

尾崎川 中村城に流れて城の北に

中村 城下の町を流る川に丁目其の東に三市 柳川 城下の入りの川に流る

赤穂 又城の南にありて城をとりて西に流る川に 赤穂 赤穂の 赤穂 赤穂の 赤穂 赤穂の

を附属其時よりして此城を築く慶長八年池田輝政一統の  
後姫路より郡代あり河内守日政綱日輝貞其後清和内匠

其後赤井家其後森家○以内匠の五ヶ郷の二郷村教都て九  
十六邑城下の所甚多買してに氏初と並べく功用あり

赤穂街の邊より海道と云い若し周世坂と稱して百目端と姫路とい  
ごうと云へり舊赤坂と稱する清和家より赤のり之は元軍元三使

浮田家か上月城へ加勢の人教三ツ石か坂坂よまらる赤のり之は元軍元三使  
道と通るが不然然と終て城を築りしと云い小治坂の同道なり

墓雲山華岳寺 伝説村より西に墓 清和候建立代に墳墓あり善持所といふ  
女と華岳院と傳説又境内に忠義塚と号して清和内匠家長矩と号す

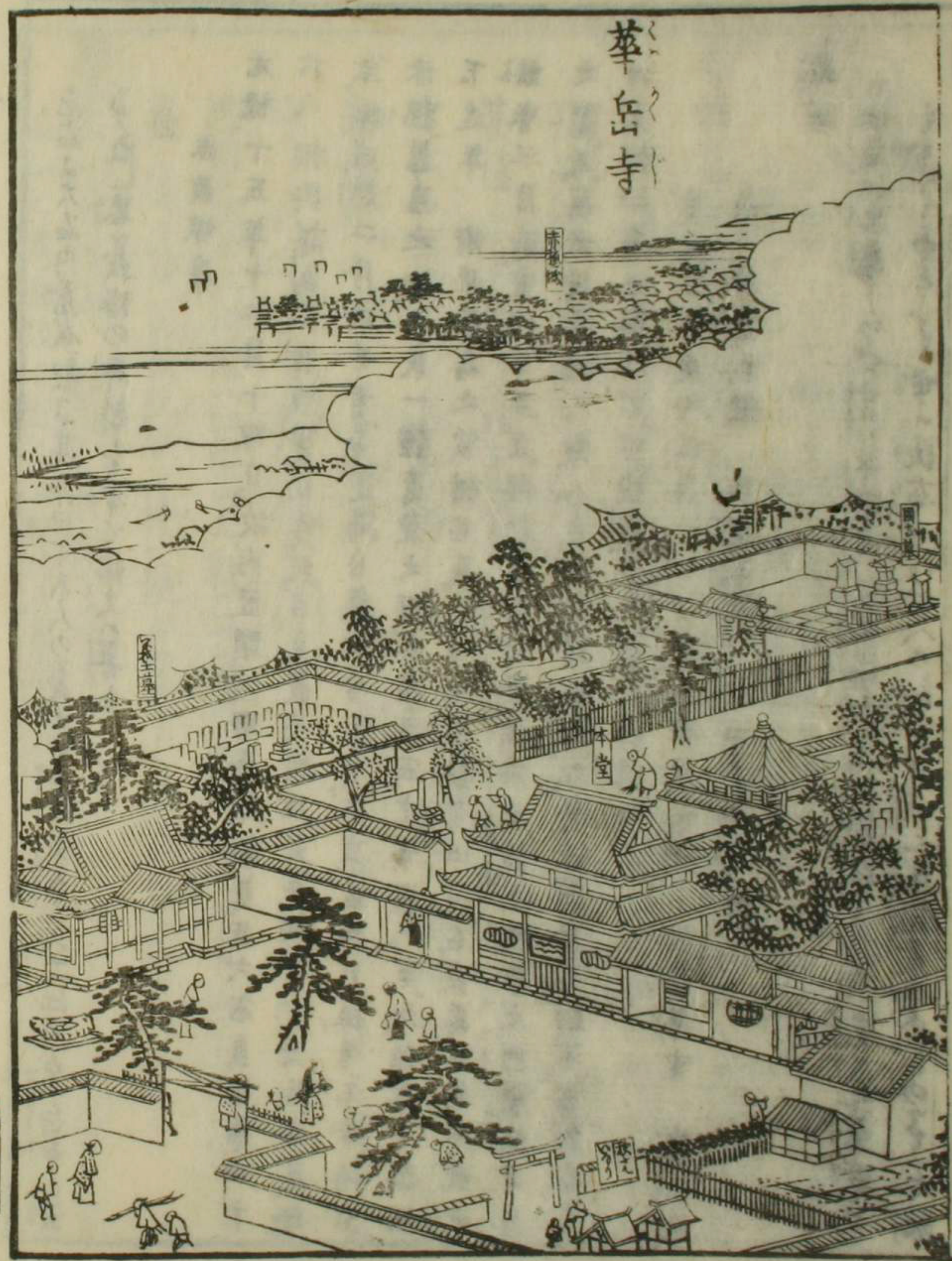
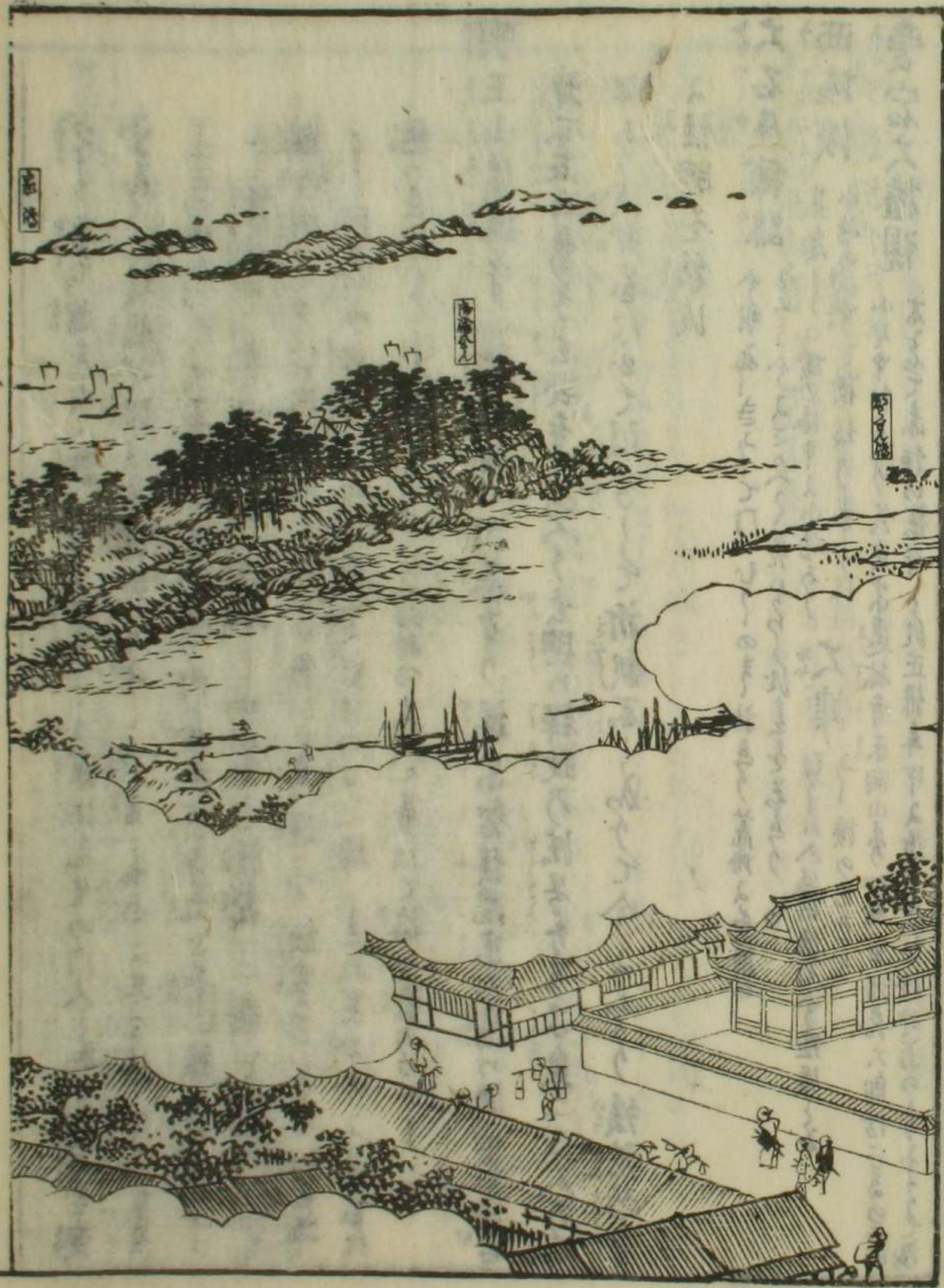
左右に大石内苑を親る其外に十八人の義士の石塔並みとて江府泉岳寺に  
ありし忠義塚の存辭を奉て銘文の畧と

忠義塚序

元禄十五年十二月十四日。故内匠頭浅野長矩朝臣。臣大石良雄等四十  
六人相與謀為其君報讐。夜襲殺。吉良義英朝臣。束身歸官。官女拘各處。踰  
年。議成。越二月四日。有命。遂賜自裁。云。今不具其事。蓋候自祖考三世得君  
赤穂恩惠之洽。巨民一體遺愛之深。其事且五十年。語一至。此猶滂然泣  
下。近年。府臣某為之。官諸君墓於城北花嶽寺中。刻石表焉。民莫不悅。今  
茲春三月。遂重伐。巨石立碑於墓道之東。屬廉為辭。夫諸君之烈。譬如日月  
之麗。天萬世罔隊。不假人言。與彫刻然。非此無以慰思焉。則不有斯舉。又  
將為何如。廉也。郡人不可辭。謹為之銘。 銘畧之

- 寛延三年庚午三月十四日郡人 奥藤利栄 松本善宣 柴原敬  
長 奥藤利徴 由淵春元 柳田吉甫等建

因云  
○此は忠義塚の石の平埔号と號湯のり人徳傳りたる一先せん著述と云  
も多しありし世に流布せり人の知る少し赤穂農業家の子と云



少より才氣勝于人と稱せらるる仕奉より東涯先生の門人となり其學を變  
學ありて後龍野服坂慶應と譽へ儒官と稱し今又其子孫あり○先生  
士三の附りく大石の教又出入り内務女其才氣と譽へ後子は一人あり  
んと稱しあり或日海軍中少佐一推挙し御前と稱し經義一二章と講せし其  
辨理明く之れが内務女も大石の教に連たり飲食もよく引出物  
よく内務女幼少の附の指針を級付の刀と稱し其刀今又其子孫に  
傳ひたり○其子孫にあり又此附の文人の青以て名を乞ふるも

明王山遠林寺 減山和尚の開基なり 禅宗智積院末之齋の池田家の善

権左又齋号玄興寺とあり玄興の釋政乃法号なり又息二三人の位

牌あり淺井家にあり改号して新願とありて今又志より後陸路寺

又位牌を移し

大石屋鋪跡 今明海寺の門のむくのみ跡なり荒港に在り

西塩濱 其度し。城の海中に小島あり 大津 江戸の海に今陸軍とあり

愛宕大権現 小中村にあり古言宗遠林寺末岡山房如勝軍地赤大即防二名の靈  
本とて赤松の徳守と正保年中又近後正純陸軍の令ありて後

長樂寺 郡の權張其正純の親とて遷され即正純は揚子河ありき後

尼子山西山寺 希 尼子墓 淡市町にあり墓は境内にあり古言宗

若狭野 奥渡墨田寺村にあり和泉郡のむと小武郡と稱し一寺とて名傳われども

和泉水式部宿本 西内村 此若佐也又首要の本あり里俗の云首けところ

本林五郎右左とあり者あり京都より小武郡と拾ひ入りしと和泉武

部安月乃のきておし時雨のくはけ栗の樹のむに舎りて

志原乃同よものうりく易ぬと今も秋ののうひは

秋の今種は出て敷き候と云ふなりと云ふは秋の種はよとては物活うは傳り出せり  
りしは伊勢物語の例とて実なりははるは和泉郡書山性上人よりて送りしは  
秋の拾遺集に云ふなりこれに和泉郡書山性上人よりて送りしは  
とて和泉郡小武郡とて上京門院を仕りて後藤のついでに高考へ

昔浦茶屋 西山村岳山にあり昔浦茶屋は後政の幕府に早を昔浦茶と稱しは

代地とては政村村の名代代にあり又高田郡高松山長崎寺は政の墓と

代地とては政村村の名代代にあり又高田郡高松山長崎寺は政の墓と

又の元禄年中境内の池より石燈と出たり。其の石燈の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。○砂石集より改徳舎石大徳院の事あり。昔蒲原と云ふ所の石燈の事あり。其の石燈の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。○砂石集より改徳舎石大徳院の事あり。昔蒲原と云ふ所の石燈の事あり。其の石燈の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。○砂石集より改徳舎石大徳院の事あり。昔蒲原と云ふ所の石燈の事あり。其の石燈の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。

八保津社 安室谷園村梵天宮にて津名帳の古社之元禄年中今の  
もとより移り細于新門寺の増上院を修すといふ。

高峯牛臥天王 安室の麻山里村あり。その山之麓安二年中宮禪殿再修慶峯の法日  
末社あり。西天王と樹伐たうと歎いて菴の荒る所あり。

高雄山津護寺 周世村あり。開基文覚明徳七年正月十六日。其の長女と記し。勅進收書二道  
あり。其の妻をまゝ山と云ふ。水島の所あり。大なる石の窟あり。其の窟の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。○砂石集より改徳舎石大徳院の事あり。昔蒲原と云ふ所の石燈の事あり。其の石燈の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。

千草川 女王御の名に完栗郡ありて大河之流の完栗郡。其の窟の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。○砂石集より改徳舎石大徳院の事あり。昔蒲原と云ふ所の石燈の事あり。其の石燈の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。

有年驛 行徳より安室次まで 有年驛あり。赤松信徳守則資三男  
備石三石あり。 有年驛あり。赤松信徳守則資三男  
備石三石あり。

六道山遍照院 有年より大徳の間に  
撰山より其の窟あり。 開基末洋礎多く砂まじり山上  
大小の五輪の塔其敷と云ふ。石を以て窟の如くなる物あり  
堦が竈と云ふ。其傍に三に尺斗なる老女史筋と云ふ。石

あり近素徳若の村民の家は瓦葺と云ふ。又西有年村大園寺又  
小鈴つり大日二年六道山遍照院と云ふ。又安室あり。其傍に光明寺と  
時代を同じうし。

五百羅漢 夫や此れ村あり。石像あり。悉く散失を今あり。其の窟の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。○砂石集より改徳舎石大徳院の事あり。昔蒲原と云ふ所の石燈の事あり。其の石燈の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。

三野山親音寺 安室の麻山里村あり。其の窟の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。○砂石集より改徳舎石大徳院の事あり。昔蒲原と云ふ所の石燈の事あり。其の石燈の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。

三本率都婆 安室の麻山里村あり。其の窟の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。○砂石集より改徳舎石大徳院の事あり。昔蒲原と云ふ所の石燈の事あり。其の石燈の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。

無嫌山 小徳山のあり。其の窟の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。○砂石集より改徳舎石大徳院の事あり。昔蒲原と云ふ所の石燈の事あり。其の石燈の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。

金華山法雲寺 若樞村あり。其の窟の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。○砂石集より改徳舎石大徳院の事あり。昔蒲原と云ふ所の石燈の事あり。其の石燈の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。

赤松山寶林寺 赤松の麻里村あり。其の窟の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。○砂石集より改徳舎石大徳院の事あり。昔蒲原と云ふ所の石燈の事あり。其の石燈の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。

園心則社別法禪師の所なり。其の窟の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。○砂石集より改徳舎石大徳院の事あり。昔蒲原と云ふ所の石燈の事あり。其の石燈の形は四方小足節より下一尺八寸ありしと云ふ。





後遂又正成が力よりて遷幸ありたりしに城王勾踐皇のに據るに  
 ありしと危難の謀略をなして城を遷らして終つて呉と亡しぬるに正成  
 忠義の法にて書するなり延元二年新田義貞兵と舟坂に進めて  
 合戦ありしなり若に右平記より人より  
 夫本 風をせよと白波とよそ人みよる坂とく月をそあやうき 漢人より

播磨名所巡覽圖會卷之五六尾

五ノ四ノ終

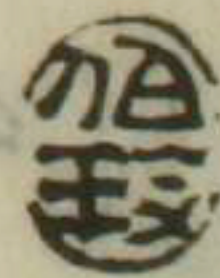
秦石田之彙輯西標名勝也  
 源亭西遊其山水寺祠下  
 園之兩以雪生亭六學矣既  
 還淨寫備次編為一帙為自  
 凡一百頁遂併授之割刷  
 氏云史之有人進士意之所適



山水其甚焉而山水之所以  
愛在位置向背濃淡瀟灑之  
中矣位不正流淡死景狀非  
手可狀之無以可狀無以可  
寫而畫之所以畫者不在  
墨直疑疑之間矣今西接山水

之尤者有狀之于隨牒之畫  
之不若其固也而所謂以墨畫  
髮髮之者亦浩之汨沒于刻  
削之中矣其後有畫亦哉其  
少五字哉寫人通士各觀乎  
刻畫之乘除于其間可也

享和三  
浪華藍  
江中直跋



*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '浪華' and '江中'.*

名所記總目錄

浪華心齋橋通  
唐物町書林

河内唐太助梓行

平安秋里離高輯

五畿内名所圖會 全部三冊

都名所圖會 全部六冊  
大和名所圖會 全部七冊  
和泉名所圖會 全部四冊

都拾遺名處名會 全部五冊  
河内名所圖會 全部六冊  
摂津名所圖會 全部三冊

東海道名所圖會

全部六冊

本會路名要目會

全部七冊

伊勢路名處圖會

全部六冊

*Vertical text in the right margin of the left page, including '村名賢英哲の傳記' and '實小全備大成の去以下名所圖會'.*

*Vertical text in the bottom margin of the left page, including '行色も別あり' and '上は'.*





